評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271102065
法人名	医療法人 萌愛会
事業所名	医療法人 萌愛会 グループホーム花
訪問調査日	平成 19 年 9 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 16 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271102065
法人名	医療法人 萌愛会
事業所名	医療法人 萌愛会 グループホーム花
所在地 (電話番号)	西海市西彼町伊ノ浦郷 207-1.209-1 (電 話) 0959-28-1187

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月16日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤	人, 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500円(30日の場合)	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 420 円
	夕食	315 円	おやつ 55 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 19年 8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	13 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人萌愛会セント・ノーヴァ病院、医療法人博道会大串歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

みかん畑などに囲まれた閑静な場所に位置し、母体法人が病院を経営していることもあり、利用者の健康管理はもとより、医療連携体制の整備、利用者の機能訓練にも力を注いでいるほか、主治医を交えた担当者会議を2ヶ月に1回行うなど、熱心な取り組みが行われている。また、近くの農家の人達とも気軽に立ち話をするなどの交流があり、地域の保育園や小学校の運動会に毎年参加し、子ども達との交流も深めるなど、地域とのつきあいの機会を大切にしている。

管理者は、このホームの事業について母体に頼ることなく、独自で運営を目指す方針を持っており、「明るく楽しい老後生活」の理念のもと、利用者の人格を尊重し、楽しく、安心と尊厳のある生活ができるようなサービスの提供を目指し努力する姿勢が感じられ、今後の取り組みが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査時では運営理念が見えにくいという課題があったが、今回は大きく見やすいように書いたものを掲げてあった。また、玄関は扉を二重にしセンサーを付けて防犯も万全にしながらも、自由に出入りできるよう開放するなどの改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	7月には、評価に関する研修を受け、その意義や目的を職員に伝えて、前回の自己評価や外部評価の結果を踏まえ、職員全員で、反省点や改善点について勉強会等を行いながら、自己評価に取り組まれている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	これまで市内の全6事業所合同で、各事業所の運営状況や行政からの通達、情報の共有のための会議を年4回行ってきている。10月からは、行政、自治会(区長)、家族、入居者代表、理事等のメンバーで、ホームの運営推進会議を年4回開催する予定であり、現在の運営状況や今後の計画、事業所の説明、地域との交流の取り組み等をテーマとして会議を計画している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2ヶ月に1回発行している広報紙「花便り」を活用した情報提供や、必要に応じて電話や家族の訪問時に様々な報告をしながら、介護計画について意見をもらったり、意見箱や苦情担当者を決めて、苦情等にすぐに対応できるようにしたりして、家族の意見をできるだけ反映できるように努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	畑での農作業の行き帰りに農家の人達と立ち話をしたり、作物の育て方を習ったり、保育園、小学校の運動会に毎年招待され、子ども達との交流を深めているほか、母体法人の病院と合同で行う夏祭りには、家族や住民100名以上が参加されにぎわっている。また、年3回のふれあい会にも大勢の参加者があり、交流を深める機会となっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく楽しい老後生活」という理念を掲げており、職員は利用者が地域での生活を継続できるように支援していくことを認識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念や基本方針を毎日のミーティングで復唱し、理念を念頭に置きながらケアを行うように努めている。また、玄関にわかりやすく大きく理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園や小学校の運動会などに利用者が参加して、子ども達との交流を図っているほか、近隣に住んでいる農家の方々との交流会も行われているが、現在のところ、自治会等と関わる機会が十分でない。	○	自治会や町内会、老人会等の地域の組織へホームから積極的に関わり、ホームへの理解を求めるとともに、交流を図るよう努められることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年に入って評価に関する研修を受け、評価の意義や目的を職員に伝えて、職員間で共有し、自己評価については職員それぞれが取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでは、市内のグループホームが合同で意見交換等を行っており、運営推進会議は、10月から年4回の計画で実施する予定となっている。		

長崎県 グループホーム花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会を中心とした市内の福祉施設や事業所の連絡会に行政担当者も参加しており、その際に情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行している広報紙「花だより」を活用して情報提供しており、利用者それぞれの日々の暮らしぶり等の報告については、必要に応じて電話や家族の訪問時に行っている。また、金銭管理については毎月出納簿を確認してもらい印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や母体法人のケースワーカーを窓口として対応しており、玄関には苦情箱も設置しているが、これまでに不満や苦情は特にない。	○	玄関に苦情箱が設置されているが、カード入れと表示しており苦情箱だということが分かりにくいので、苦情箱であることの周知を行ったり、わかりやすい表示にされるなどの工夫を図られることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1、2人の異動はあるが、管理者などが職員から意見を聴取したり、職員と利用者のなじみの関係への配慮があり、利用者特に混乱がないように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1、2回開催されている法人内での勉強会や事例検討を行ったり、外部の研修会に積極的に参加したりしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所などが集まり定期的な勉強会が開かれているので、職員は可能な限り参加するようにしており、5人くらいの入居者と一緒に出かけて参加する場合もある。また、夜間に開催される場合はボランティアとして出席し、ネットワーク作りやお互いの事業所のサービスや空室等についての情報交換も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が病院に入院している場合でもホームを見学できるように支援している。また、利用開始当初は家族にできるだけ来てもらうようにするなど、少しずつホームに慣れ、職員や他の利用者になじめるように配慮しており、利用者に納得して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農家出身者が多いため利用者に畑仕事をしてもらったり、押し寿司やおはぎの作り方、洗濯物のかたづけ方など、職員が利用者から多くのことを教えてもらったりしており、利用者職員が共に過ごし、支え合う関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の支援の中で、利用者の言葉や表情から意向を把握するように努めるとともに、家族からも利用者についての情報を聞き、できる限り利用者本人の意向に沿えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2ヶ月に1回主治医を交えて担当国会議を行い、利用者のケアについて検討しており、家族の意見や同意を得ながら、ケア会議などにおいて職員間で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化や希望、担当国会議での検討結果などを踏まえ、家族との意見交換を行いながら計画の見直しを行っており、できるだけ利用者や家族の意向も計画に反映するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回病院でのリハビリを利用できるように支援しているほか、入院の支援、受診や野菜の移動販売等への買い物などを、その時々状況や利用者、家族の希望に合わせて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が納得して利用している病院に、定期的に受診できるように支援しながら、夜間や急変時にも対応してもらえるように医療機関と連携を図り、安心して医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で状態の変化などの把握ができるように、日々の血圧等のチェックや、定期的な受診における状態の確認に努めるとともに、状態の変化が見受けられる場合は家族や医師とよく話し合い支援方針を検討し、職員全員で方針を共有し支援するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、勉強会において職員間で協議し徹底を図っており、利用者の立場に立って考え、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ等に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はある程度決まっており、一緒に食事をとってもらうようにしているが、その外はできるだけ自由に過ごしてもらえるように支援しており、希望に応じて散歩や売店への買い物などの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや盛り付け、後片付け等、できる限り利用者と職員と一緒にっており、訪問調査時には、利用者が芋の皮むきなどを行っている姿が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回行っているリハビリの日には入浴を行っていないが、それ以外の日は利用者から希望を募り、一人ひとりの希望に合わせて入浴してもらっている。	○	リハビリの日には入浴できないとのことだが、夏場であればシャワーや清拭で対応したり、足浴をするなどの工夫を図りながら、毎日入浴できる方法を検討されることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態等にあわせて、可能な場合は掃除や調理、食事の準備等を手伝ってもらっている。また、楽しみごととして、カルタ取りやパズル、手作りのレクリエーション等それぞれの趣味や好みに合わせて楽しんでもらい、気晴らしの支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回、野菜の移動販売がホームの近くに来るので、その際に買い物に行ったり、近くの売店や直売所へ買い物に出かけたりするほか、月1回はドライブなどに出かけ、楽しんでもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は二重ドアになっているが、ともにセンサーを取り付け、人の出入りがある時はチャイムが鳴るようにしている。職員は、利用者の気配やチャイムの音に気を配り、すぐに対応できるようにして、21時までは鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消防署員に指導してもらいながら年3回避難訓練を実施している。また、マニュアルを作成して毎日職員が集まるミーティング室に設置している。		今後、近くの消防団へも協力を得られるように働きかけを行うほか、スプリンクラーの設置も決定しているため、更なる対策の強化が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食と夕食の献立は、母体法人の栄養士がバランスよく考え作成しており、昼食も利用者の好みや希望を聞きながら一緒にメニューを考えている。また、毎回の食事摂取量のチェックと月1回の体重測定等により、栄養状態の把握を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、雛人形や七夕祭りなど四季折々の飾りつけや行事を楽しみながら、季節感を感じられるような雰囲気作りに努めている。音などについては、隣のユニットと天井がつながり吹き抜けになっているため、会話やテレビの音などに気になる点がある。	○	音については、今後、両ユニットともに不快な音などが気にならないような工夫に取り組まれることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が希望する品物を持ち込んでもらえるようにしており、家族の写真や仏壇、家具等、使い慣れた物や好みの物を置き、居心地よく過ごされるようにしている。		